

平成11年11月(1999年) No. 407

大阪アマ連映像祭、盛会で無事終了 OMC映像フェスティバルも成功させよう

大阪市立中央図書館との共催による大阪アマチュア映像連盟映像祭は、10月30日(土)午後開催されましたが、大盛会のうちに無事終了し、ほっとしました。単独では公开发表会を持ってないクラブにとって特に有意義だったと思います。さて、この反動で1ヶ月後の11月28日(日)に行われる我がOMC映像フェスティバルの入場者が減らないことを祈るばかりです。むしろOMC伝統の発表会に期待を持って大勢の方に来ていただきたいものです。どうか会員の皆さん、お知り合い、ご家族共々動員のご協力をお願いいたします。今年の発表会は1900年代最後の発表会です。大盛会の締めくくりにしたいと思います。

■第39回OMC映像フェスティバル上映作品：(敬称略)

①嵯峨野夏風景：森口吉正、②走れSL!夢ふたたび：奥博、③心象トルコ
 絵図：関剛、④ほうらんや：江村一郎、⑤癒しを求めて：安居良枝、⑥イギリス縦断紀行：上総修一郎、⑦尾瀬：那須典彦、⑧不思議熊野古道：藤原純三、
 ⑨飛鳥散策：今井羨美、⑩魔女の箒で空を飛びたいね：高田淳吉、⑪住吉大田楽：安居利次、⑫ネパール・トレッキング：勝成忠、⑬冬・高野山：前田茂夫、
 ⑭三味画の世界：有村博、⑮雑草都市：合原一夫、以上15作品。来年は第40回記念映像フェスティバル。今から来年の発表会へ向けて年1本でいいから自信作を目指して取り組んでください。研究会を大いに活用しましょう。

11月例会のお知らせ

11月例会は27日(第4土曜日)午後6時より、阿倍野市民学習センター(あべの・ベルタ3階)で開催します。今月も午後1時より「作品研究会」を開催します。どんな作品でも完成間近いものがあれば一緒に研究しましょう。通常例会を含めて大勢の会員さんのご参加をお待ちしています。

また翌日28日は公開映写会ですので、当日お手伝いできる方は11時までにお越しくださるようお願いいたします。

10月例会のレポート

今月の作品研究会は例会当日の午後1時半から開催しましたが、12名の出席と6本の作品素材が出品され、時間をかけて意見交換や助言などがあって大変勉強になったと好評でした。11月研究会も自由作品です。編集思案中の素材や例会以上に皆さんの詳しいご意見を聞いて手直ししたいと考えておられる作品など気楽にお持ちください。

午後4時からの世話役会ではきたる11月28日の「OMC映像フェスティバル'99」の打ち合せを中心に議題進行し、招待状発送手配をしました。引き続いての例会は司会、合原さん、書記、有村さん、デッキ係に渡辺さん、奥さん、受付兼照明係を安居良枝さん、増池さんの担当で進行しました。

今月から新に森田光春さんと安居 充さんが入会されました。皆さん共々よろしくをお願いします。

森田光春さん 〒546-0042 大阪市東住吉区西今川1-6-26

電話 6719-5430

安居 充さん 〒562-0001 箕面市箕面3-17-5

電話 0727-23-2267

◆出席者：森、奥、関、安居利、安居良、江村、(安居充)、花岡、那須、合原、森田、岡本、上総、有村、森口、金子、渡辺、松本、宮崎、森下、今井、増池、中尾の皆さん(敬称略) 22名と作品出品1名(安居さんの息子さんで新入会者) 作品本数11本

◆上映作品(今月の記録と講評担当：有村 博)

1) 秋花咲く飛鳥の里逍遥 奥 宏さん 6分03秒

彼岸花の咲き乱れる飛鳥を、高松塚古墳から途中、猿石、亀石、橘寺などの名所を三脚でがっちりと構えて撮影し、石舞台古墳までをまとめています。現代の飛鳥は観光客を入れずに撮影することは到底不可能で、これをうまく処理しながら静かな笛の曲もよくマッチして雰囲気をかもしだしていました。タイトルは「飛鳥逍遥」で良いのではとの事でした。

2) 菊師 安居 利次さん 6分50秒

枚方公園の菊人形展の人形の出来るまでを追った素晴らしい作品です。タイトルの前頃から始まる平野の松村さん、平野映像塾撮影会、それを追うテレビ局の取材のくだりのナレーションを割愛して、作品の中でもそれに関連するカットを出来るだけ省けば、観客に判りやすい作品になるように思いました。菊師が畑で菊を掘り起こして車で運ぶ所など撮れたらベストでしたのに・・・、という声もありました。

3) プロのドキュメント制作を追って 安居 良枝さん 7分40秒

同じ枚方菊人形展での取材作品です。作者が一番ご存じの松村さんですが、顔のアップが全くないので、ナレーションで何回も松村さんと言われてもどの人がそうなのか、という事になります。菊師のアップが多く出てきて、その上監督さんがインタビューしているのがどうも菊師のようです。テレビでの主役がそっちのけの取材のように見えました。私達の制作する短篇では、このような場合、松村さん、菊師又は監督さんの誰か一人を中心に撮影、編集しないと複雑な人間関係は理解されません。撮影を始める時にどんな作品にするかの判断が一番大切なように思います。最後のナレーション「この辺でもう良いのだと思わないように」別の機会に再挑戦してください。

4) PL花火芸術 江村 一郎さん 5分40秒

前回9月の例会で9分で上映した同じ作品を約40%カットしての再登場です。迫力の点では前回と全く変わらず良かったのですが、短くなった分良くなったかという点は何とも言えないのです。池の彼方にあがる花火のロングカットが迫力の割りに長く感じられるのでこれに驚く観客をダブらせる(二重画面)とか、ワイプで別の花火の画面も見せるとかの工夫も必要ではないでしょうか。観客の歓声が途切れる所の処理なども重要に思えました。全編同じ調子なのも損していますので、後半の盛り上げに前述の工夫した画面、花火のアップの短い画面等をたたみかけて印象深く終わらせたらよくなるのではないのでしょうか。

5) ダンシング プリン 安居 充さん 3分30秒

先ずタイトルが秀逸です。早合点の人間は「食べるプリンをどうして踊らせるんだらう」なあって思わせといて、実は可愛い子猫の名前だったなんて、いいですね……。クラシックの曲に合わせて子猫が色んな仕草をしてくれます。犬の尻尾を咬んで盛んにふざける所は犬の頭を人間が押さえ付けてのヤラセとわかるけど、その直後に犬の当惑した顔のアップが入ったら大爆笑だったのになぁー、とは皆さんの声でした。パソコン編集の繰り返し画面やスマートなタイトルなど、安居ご夫妻の息子さんどうかこれからもよろしく。

6) 水の舞踊 那須 典彦さん 3分20秒

東北の奥入瀬溪流や北海道の滝など撮り貯めた映像で水の流れを作品にしようと試みられたようです。大自然そのままの美しい景観ですが、どれも同じ位の画角ですので舞踏の姿が見えてきません。水の飛沫のアップとか、雄大な流れのスローモーションなども必要ではないでしょうか。それでもシャッタースピードを変えたカラフルな噴水の水玉の躍動や水に写るネオンのうねりなどの方がこのタイトルには相応しいように思えるのですが。

7) 南極の生きもの 上総 修一郎さん 17分40秒

今年の1月に10日間のツアーで南極に行かれたそうです。まだ世界でも何万人位の人しか行ってない所でビデオを撮影され作品にしておられます。巨大な流氷、汐を吹く鯨、氷河の先端の流れ落ちる迫力など、アマチュア撮影の映像をたっぷり見せて頂きました。「生きもの地球紀行」(NHK)など、すぐ嫌になって消してしまうのに、上総さんの映像は何故魅力があるんだらう。それはきっと同好の親近感かも知れません。作者に変わってのプロの女性によるナレーションで少し抵抗はあったのですが、ペンギン一家の所のナレーション原稿の素晴らしさと相俟って久々の大作を見せて頂きました。

8) 旅のオムニバス 有村 博さん 7分00秒

5月に夫婦で2泊3日の安いバスツアーに参加して、とりとめもない映像を撮ってきたのですが、どう編集したらよいか悩んでいました。4つの短篇にして昔はやったオムニバス映画にしてみました。オムニバスとは、全く関係のない人々が乗合自動車にのっているような意味があるそうです。バスツアーにも少しひっかけてつけた題名ですが、意味が解らないので損だとかご指摘がありました。

9) 花の伊吹山 森口 吉正さん 6分00秒

7月の下旬に車でお一人で出掛けられ、午前3時頃に到着、ご来光を待たれたようですが、あいにくの霧で撮影出来なかったそうです。この高山植物は関西でも有数の見事なお花畑を毎年見せてくれているようです。山頂にほど近い所に駐車場ができ、登山道路が整備されているので、大型観光バスなどで大

勢の観光客が毎年訪れるようになって、作者も言われるように自然環境の保護が一番頭の痛いところのようです。

10) 秋郷祭 金子 博泰さん 9分26秒

もっと長い作品の頭と終を切ってこの長さにして持ってこられたそうです。東大阪市の枚岡大社のふとん太鼓の出るお祭の記録です。最初に出てくる、だらだら歩く神官や止まったままのふとん太鼓などもっと切るカットは多々あるようですし、全体にカットが長いので退屈します。お祭の記録でも極端に短いカットの積み重ねで迫力ある作品にしてください。この半分でもどうでしょうか、と思いました。

11) 納涼ハイキング 宮崎 紀代子さん 5分50秒

夏に京都の貴船から鞍馬へかけてハイキングをされてビデオ撮りされた作品です。丹念に構成されて良かったのですが、貴船神社でのシーンが多いので、ハイキングされている様に見えないのが残念です。もっとリュックサック姿の人や登山靴の足元を入れて山道を歩く自分を歩きながら撮るとかしますとハイキングらしく見えるのではないのでしょうか。状況描写の広角カットの中に見せたいアップ画面が入りますと、もっとテンポのある作品が出来るように思います。

以上で会員さんの作品上映を終り、何時ものように喫茶店と居酒屋に別れて2次会を楽しみました。

■お知らせ

・12月例会は恒例により第3土曜日となりますのでお知らせしておきます。なお当日は研究会のあと4時より世話役会を予定していますので、世話役の方は予定しておいてください。

- ・郵便番号変更のお知らせ 合原一夫 旧565-0085 新560-2285局新設のため
- ・第6回映像作家連盟発表会：平成12年1月29日(土)阿倍野市民学習センター
- ・新年会は1月9日(日)の夜を予定していますが、如何でしょうか。まだ会場予約はしていませんが、ご意見を合原までお聞かせください。

■OMCをインターネットで発信

情報化の時代への対応策として、インターネット上にOMCおよび大阪アマチュア映像連盟を紹介することにしました。広報担当(前田さん)のホームページ「ビデオスケッチ」にOMCの沿革および例会ニュース、大阪アマチュア映像連盟の紹介、各クラブの会員募集の案内、および一部OMC会員さんの作品紹介を載せています。ホームページのディスク容量に限度がありますので、残念ながら例会出品作品を全て載せられませんが、来月から例会作品のうち1~2本を紹介出来ればと考えています。

私たちが時間と労力とお金をかけて折角精魂こめて作品をつくっても、人様に観ていただくチャンスは例会で1回、その作品が優秀作品であれば公開映写会で1回の映写、都合2回の上映がせいぜいです。折角作ったのだからこれでは惜しいからといって、2~3のクラブに加入されている方が多いようです。しかしインターネット上に発信すれば、不特定多数の方に観ていただけるチャンスは増えます。インターネット映像の小ささ、映像の不鮮明さ、音質の悪さなど、インターネットでの映像発表にはいろいろ問題点がありますが、これからは積極的に活用すべきではなかろうか、という考えからです。例会ニュースは印刷物が会員の皆様のお手元に届く前には、すでにインターネットに発信されています。パソコンをお持ちの方は先にこちらの方を覗いてください。

URLは <http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/> です。